

道の駅 魅力さまざま

現在、全国で1千を超える「道の駅」。ドライブの間の一休みだけではなく、先人の歩みに思いをはせ、心もおなかも満たせる道の駅が、日本海側にもたくさんありました。

神話の海岸 夕日自慢

■島根・キララ多伎

島根県出雲市多伎町の道の駅「キララ多伎」では、奈良時代に編纂された出雲国風土記の世界に近づける。風土記に登場する国引き神話で、海のかなたから土地を引き寄せた「綱」とされる「蘭の長浜」の海岸線が一望できる。旧多伎町が1998年度に整備。近くに宿泊できるコテージや温泉施設なども集まる。

近くの水平線に沈む夕日。

「日本の夕陽百選」に選ばれ、今年4月に認定された日本遺産「日が沈む聖地出雲」の範囲にも含まれる。1階フロアで夕日を眺める人々のシルエットを見ながら、古代の人もこの夕日を……と思いを巡らすのもこの楽しみ方だ。

縁結びをPR

■鳥取・白うさぎ

名物の一つが、駅の正面 日本海に面した鳥取市北



「キララ多伎」の1階フロアから望める夕日＝島根県出雲市多伎町

部の白兔海岸。大国主命と八上姫の縁を取り持つ白うさぎを描いた神話「因幡の白兔」の舞台とされ、そばに白兔神社がある。この地の道の駅「神話の里白うさぎ」は縁結びをPR。近年は「恋人の聖地」としても知られている。

駅の縁結びグッズの一つが「因幡の白兔恋物語すくらっぷ」（税込み515円）。大国主命の人形が付き、八上姫の故郷とされる鳥取市河原町の道の駅「清流茶屋かわはら」で販売されている八上姫の人形の付いたストラップ（同5

10円）を近づけると引き寄せ合う。どちらの人形にも磁石が入っているためだ。神話の里白うさぎの駅長、松田美豆さん(70)は「恋人同士でなくても、楽しい時間を過ごして」と呼びかけている。